

観音前遺跡 第47地点

遺跡名	観音前遺跡
よみがな	かんのんまえいせき
調査地点	第47地点
主な時代	弥生時代後期（約1800年前）、古墳時代後期（約1500年～1400年前）
調査地	富士見市水子字城ノ下3063-1、3063-2
調査面積	603 m ²
調査期間	平成28年12月19日～平成29年1月25日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 弥生時代後期の竪穴住居跡7軒 弥生時代後期の不明遺構1基 古墳時代後期の溝状遺構1条 奈良時代の竪穴住居跡2軒</p> <p>【出土した主な遺物】 弥生時代後期の壺、台付甕 古墳時代後期の坏（つき） 奈良時代の須恵器坏、土師器甕</p> <p>【概要】 今回、弥生時代後期の竪穴住居跡が7軒確認されたことによって、遺跡の東部にまで弥生時代後期の集落が広がっていたことが明らかとなりました。また、確認された同時期の不明遺構は方形周溝墓のコーナー部の可能性があり、当遺跡東部に墓域が広がっていたものと想定できます。</p> <p>調査区北部で一部確認された溝状遺構からは、底部の丸い坏がまとまって置かれた状態で多数出土しており、古墳時代後期の古墳の周溝であった可能性が高いと言えます。</p> <p>また、確認された奈良時代の竪穴住居跡の1軒からは、住居を取り壊した際に捨てられたと思われる甕の破片が多数出土しています。当遺跡では、これまでの発掘調査でも古墳時代の住居跡が確認されていますが、柳瀬川を挟んだ対岸の志木市では古墳時代の集落が多く見つかっており、当遺跡との関連が注目されます。</p>



弥生時代後期の竪穴住居跡



弥生時代後期の竪穴住居跡から出土した壺



竪穴住居跡から出土した炭化材と焼土塊



奈良時代の竪穴住居跡



奈良時代の竪穴住居跡から出土した土器片



溝状遺構



溝状遺構から出土した多量の坏



不明遺構